

地域福祉の現場確認

地域ではどんなことが起きているんだろう？

1

【通いの場が生む地域のつながり】 計画書 P48

「赤ちゃんからお年寄りまでみんながお互いに知り合っている姿が理想の地域」と語るBさんは週に二度、高齢者の通いの場(サロン)を開催しています。

ここでは食事やコーヒーが楽しめ、専門職が健康相談にも応じます。Bさんは常に、誰かの役に立てることではないかという目線でいます。そんなBさんがサロンで昼食を作っていると、利用する人もお互いにコミュニケーションをとりながら、できる範囲でお手伝いをしています。料理が出来上がると女性の利用者は談笑しながら食事を楽しみ、男性の利用者は囲碁に夢中になりながら食事をし、それぞれの居心地の良いつながり方で楽しんでいます。

高齢者の通いの場とは言いつつもBさんは「誰でもここへ来ていいし、好きな形で居ていい。」と言います。小さな子どもを連れた人、心に悩みを抱える人もここへ来て、Bさんやほかの利用者と空間、時間を共有します。常連さんの姿を見かけなければ、本人や知り合いであろう人へ連絡してみます。Bさんは誰もほっとけません。誰かとつながっている光景を暖かく見守るBさんの目が印象的です。



その後の状況は・・・？

地域ではどんなことが起きているんだろう？

最近の印象的な地域の出来事や困っていることは？

- ・能登半島地震から避難されてきた女性に通ってくれていて楽しそうな様子。
- ・夏休み中に孫を連れてくる利用者が居て他の利用者がその子供に構っていて普段の雰囲気と違いが生まれて良かった。毎回や長時間だと利用者の居心地や体力的に大変だろうが、たまに1人来るのは刺激になる。
- ・この活動場所を使って地域の人とバザーを開催したら近所の子供に喜んでもらえた。
- ・活動を後継者に引継ぎたいが、先細りになっていきそうな状態では譲りたくない。補助金等によるサポートやスタッフの確保など、ある程度長く安心して運営できる見通しが立つと良い。
- ・食材は自分の畑のものや差し入れもあるが、光熱水費の高騰がかなり負担。
- ・他に子ども分野の活動をしてみたいし、地域の現状にあった活動、理想が見えてきたが、体は一つだし年齢的にも厳しい。培ってきた経験が役に立つのであれば、地域活動を始めたい人に教えたりするのは可能。



地域ではどんなことが起きているんだろう？

【地域の声からボランティアによる移動支援の取組開始へ】 計画書 P50

東小学校区に住む方たちから「近くにスーパーやドラッグストア、病院がないので、車が運転できないと不便」、「コミュニティバスの本数が少ない」、「バスの乗り継ぎがスムーズにいかず、1時間以上待たないといけない」という困りごとが地区社会福祉協議会に寄せられました。

移動支援のための車両の試験運行会を行い、まずは長久手ニュータウン(岩作三ヶ峯)に絞って住民主体の助け合いによる仕組みづくりを目指すことに。民生委員や地区社協メンバー、ボランティアドライバー、ニュータウン住民、市役所、社会福祉協議会、CSWで定期的な話し合いを重ね、試験運行の内容が決定しました。その後もみんなで話し合い、ルートや時刻の見直しも行っています。

地域の困りごとに対し、同じ地域の住民さんによるお手伝いの輪が広がり始めました。

「便利になってよかった」「今までよりも早く家に帰れるようになった」「車内で、他の同乗者や運転ボランティアさんとの会話が生まれ、それも楽しい」「車内での皆さんの会話を聞きながら楽しく運転させていただいています」こんな嬉しいコメントが寄せられています。

その後の状況は・・・？



地域ではどんなことが起きているんだろう？

4

CSWによると？

- ・長久手ニュータウンの住民に限定して取組を始めたが、同様に困っている地区の高齢者の方の要望を受けて北熊の住民も対象に加えた。定期的に利用する方はそれほど多くないが、運転免許を返納した方などが新たに利用登録するなど、登録人数、1回あたりの利用人数ともに少しずつ増えてきている。
- ・「1人で利用するのは抵抗がある」といった声を受け、毎週金曜日の定期運行に加えて、長久手ニュータウン、北熊、北浦の3地区でそれぞれ月1回「お買い物会」の実施を開始。利用者の意向で行先を決定し、運行を始めた。このお買い物会では、買物はもちろん、「近所の人と話しながら行き来をするのが楽しい」「定期的に皆さんと会えるのが嬉しい」という感想が多く寄せられている。運行していて感じるのは、買物の要望を満たすというよりも「移動する地域の集いの場」になっている。外出や誰かと話す機会にもなり、少なからず介護予防につながっているとも感じる。
- ・利用予約している方が予定の時間になっても来なかったため確認すると、前日に救急搬送されて入院していることが判明。高齢者の見守りの役割も果たしているとも感じている。
- ・持続可能な取組としていくためと、気兼ねなくご利用いただくため、利用者からガソリン代実費相当額をいただくことを開始。
- ・取組の周知をしてきた結果、認知度が上がり、他小校区や市外の方もボランティアとして活動中。



地域ではどんなことが起きているんだろう？

民生委員・運転ボランティアによると？

- ・会社の自己研鑽の研修期間を利用して参加している。まもなく研修期間が終了してしまうが、予定があれば引き続き活動を行いたい。
- ・ひきこもっている人をどうやって外に出そうかなという思いがあって何かできることはないだろうかとボランティアセンターを訪問した際に紹介されて活動するようになった。これをきっかけに認知症ボランティアにも参加するようになった。
- ・車が好きで車を使ったボランティアをしようと思っていたところ、広報で取組を知って参加するようになった。毎回利用する人が同じであり、もっと取組について周知していく必要があると思う。
- ・北熊のお買い物会は、必ずまずは喫茶店にモーニングに行き、その後に買い物を楽しむ。買い物の要望を満たすだけにはなっていない。参加者はおしゃべりをする機会を楽しんでおり、楽しかったので次回も行こうかなと言われている。



地域ではどんなことが起きているんだろう？

【「受け手」としても「支え手」としても活動しています】 計画書 P52

ひきこもりがちであったり、人との交流に苦手意識があったものの、N-ジョイのイベントに参加し、それがきっかけとなりボランティア活動に参加するようになった方をご紹介します。

①知的障がいのあるCさん

市内の障がい者サロンに参加していたCさん。障がい者相談支援センターの相談員やCSWからN-ジョイを紹介され、継続的に利用するようになりました。毎週来られて、皆とおしゃべりができるし、新しい知り合いもできる、同級生との再会もできた楽しいところだと思いながらN-ジョイを利用していたある日、CSWから「お手伝いをしてもらえないか」と声をかけられました。できるかなと思いながら、チラシ配布の準備や食品の仕分けのボランティアを始めました。ボランティアを始めて、他にも自分にできることがあるという自信がついたと笑顔で答えてくれました。

②コミュニケーションに不安のあるDさん

学校の夏休み。母親と長久手温泉ござらっせの帰りに、休憩を兼ねて初めてN-ジョイに立ち寄ったDさん。いろいろ自分についての話を聞かれることが苦手だったので、最初は警戒して参加。でも、スタッフの人が距離感を保ってくれたことから、安心して通うことができました。N-ジョイに通い出して1年後、CSWから「不登校の子のゲーム相手を探しているんだけど、やってもらえない？」と声をかけられました。ゲームの相手ならば、あまり話をする必要もなく行えると思い引き受けました。今日は上手く対応できたかと毎回心配でしたが、関わっている子のお父さんが「今日は息子の笑顔が見られたので良かった」など感想を話してくれたので、続けることができたそうです。

「今はボランティアを休止していますが、これからも困っている人の手助けができればと思っています」と少しはにかんだ笑顔で爽やかに答えてくれました。

その後の状況は・・・？



地域ではどんなことが起きているんだろう？

7

Cさんは今どうしてる？

食品の仕分けのボランティアを月1回続けています。人の役に立つことが嬉しいし、仕分け作業も楽しいので、これからも続けていきたいと話してくれました。

Dさんは今どうしてる？

休学していた大学に復学し、授業以外にサークル活動をしたりと元気に過ごされているとのこと。



地域ではどんなことが起きているんだろう？

8

他の利用者さんのケース

ケアマネを通じて利用者のひきこもりのご家族の相談があり、N-ジョイを紹介。本人と母でN-ジョイに参加。当初は質問に母が全て答えていたが、参加回数を重ねていくうちに、本人も少しずつ会話するようになった。段々と一人で参加するようになり、猫が好きで飼っていることをきっかけに話が弾むようになった。

その後、CSWから猫の写真をポストカードにして、N-ジョイを利用する他の人にも見てもらうのはいかがでしょうかと提案したところ、やってみることとなった。CSWと一緒にポストカードを作成し、掲示開始。掲示のほか、地域共生ステーションのお祭り参加者のお土産としてポストカードを配布したところ、好評であったことから本人の意欲が向上し、以降市内のイベントでポストカードの配布を継続中。

本人は子どもと接することが苦手とのことで、子ども対象のお祭り等に参加することは難しいと話していたが、長久手市福祉まつりには参加することができた。月1回ペースでN-ジョイに参加を続けており、猫の写真を通して少しずつ地域とのつながりができはじめている。

本人も、ポストカードへのコメントを読むのが嬉しい、これからも作成を続けていくつもりと話している。



地域ではどんなことが起きているんだろう？

9

【宿題&お昼ご飯の会】

民生委員からの紹介で職員が訪問。

夏休み期間中の長小児童を対象に集会所を使って昼食のふるまいと宿題や遊びの場所を提供。

元々はCSWが仕掛けたもので、長小校区内の気になる世帯の児童を対象に昼食を提供しようというものであった。実際には、問題を抱える抱えないの垣根無く幅広く児童が20名ほど参加し、夏休みの出来事や好きなアニメやスポーツの話などざっくばらんに児童とコミュニケーションを図りながら時間を過ごした。気になっていた世帯で当日参加が得られなかった世帯へはくらし・しごと・つながり支援センターによってご自宅にお弁当を届け様子をうかがった。

昼食は、株式会社王将フードサービスが行う、お子様弁当を子ども食堂等は無償提供する取組を利用した。当日は、CSWのほか、長小校区内の民生委員の有志や、自治会連合会長が児童の相手をしていた。

夏休みの会が好評で、冬休みにも開催希望が多かったことから、冬休みにも同様のイベントを実施した。すぐに定員30名の申込に達した。地域住民のつながりづくりや支援を必要とする世帯の把握の機会として、民生委員や地区社協のメンバー、自治会連合会と協力しながら引き続き同イベントを続けていく予定。



計画の推進

※資料1 P9再掲

地域福祉計画としての推進について

周知・啓発

地域福祉について考え合う場の創出

地域福祉講演会・
ワークショップなど

進行管理

地域福祉がどれだけ進んだか ≠ 事業実績(人数・件数等)による点数付け

地域への影響や成果(市民や関係機関の意識や行動に起きている変化、連携)



地域の方への聞き取り、現場確認

市民意識調査

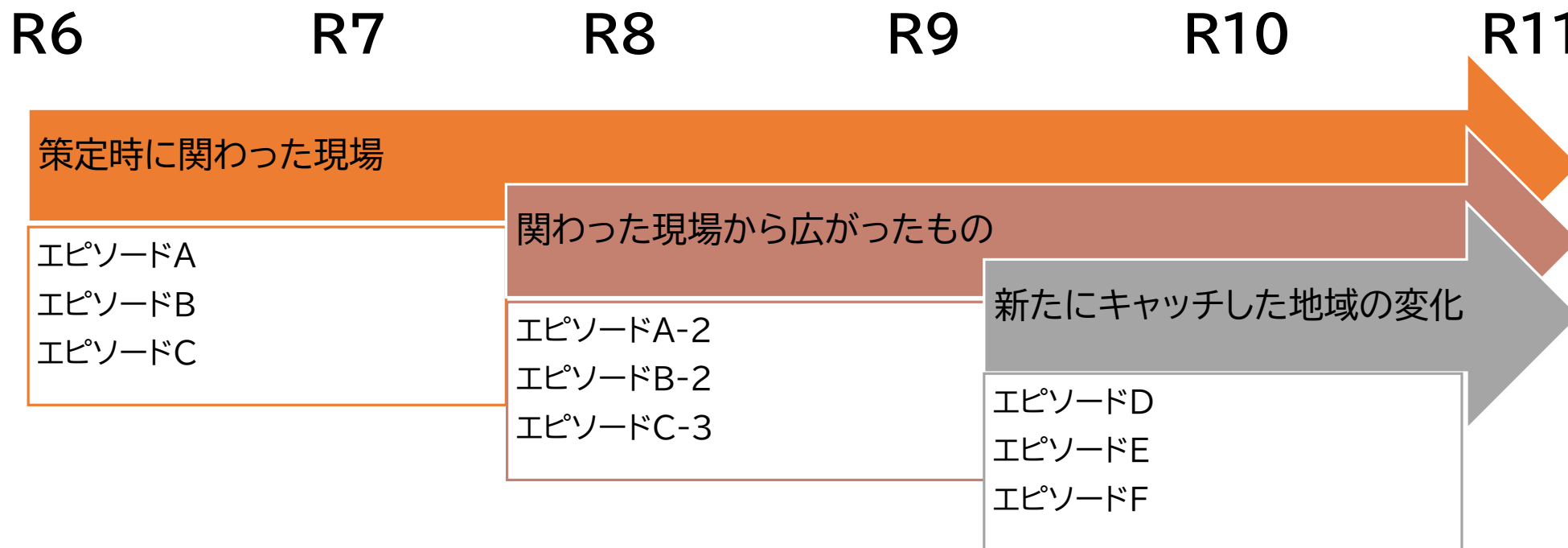
- ・市民が感じる地域のつながりの強さ
- ・周囲へ助けを求められていると感じているか

庁内、委員会で共有、蓄積



地域ではどんなことが起きているんだろう？

11



地域の変化の様子について共有、蓄積していくことで、計画改定時に数値では測れない評価の材料として用いたい。

おわり

12
